

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

- |      |     |
|------|-----|
| ① 国語 | 58人 |
| ② 算数 | 58人 |
| ③ 理科 | 58人 |

#### 5 留意事項

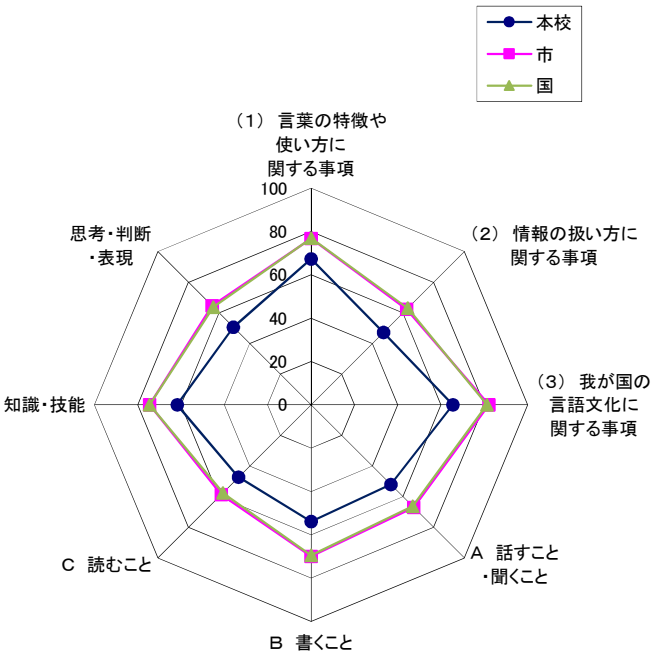
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.3	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	47.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	65.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	52.1	67.0	66.3
	B 書くこと	53.9	70.0	69.5
	C 読むこと	47.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	61.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	50.7	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

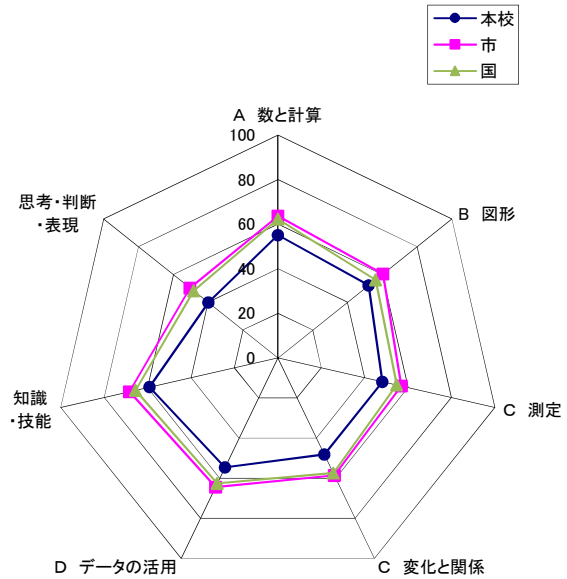
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は67.3%で、国の平均を9.6ポイント、市の平均を9.4ポイント下回った。 ●漢字を書く問題では、国の平均正答率をそれぞれ5.2ポイント、13.9ポイント下回った。	・漢字小テスト、校内漢字オリンピックなどに向けて練習に取り組むよう意識を高めさせ、漢字の力の定着を図る。また、文章を書くときに学習した漢字を積極的に使うよう指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は47.3%で、国や市の平均を15ポイント程度下回った。 ●情報と情報との関係付の仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方の理解についての問題では、国の正答率を15.8ポイント下回った。	・情報を図に表して整理し、関係を結び付ける学習を多く取り入れることにより、情報の内容や関係性を正しく把握する力を育成する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は65.5%で、国や市の平均を16ポイント程度下回った。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、国の正答率を15.7ポイント下回った。	・読書に親しみ、語彙力や読解力を高めることができるよう、朝の読書の時間や読書週間などを活用し、様々な種類の本を読むよう奨励していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は52.1%で、国の平均を14.2ポイント、市の平均を14.9ポイント下回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかをみる問題では、国の正答率を17.3ポイント下回った。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる問題では、国の正答率を15.5ポイント下回った。	・話す活動で自分の知りたいことを具体的に相手に伝えられるよう考える学習を多く取り入れることにより、会話の力を高めていく。 ・様々な教科で自分の考えを伝える機会を設け、よりよく伝えるよう工夫させることにより、自己表現の力を高めていく。
B 書くこと	平均正答率は53.9%で、国の平均を15.6ポイント、市の平均を16.1ポイント下回った。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題では、国の正答率を15.8ポイント下回った。	・各教科において、感想文、説明文、まとめ新聞、考察など、条件や目的に合わせた文章を書く学習を多く取り入れ、文章力を高めていく。 ・自分の考えが伝わるような構成や内容の工夫をし、表現力を高めていく。
C 読むこと	平均正答率は47.3%で、国の平均を10.2ポイント、市の平均を11.3ポイント下回った。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題では、国の正答率を18.6ポイント下回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、国の正答率を14.5ポイント下回った。	・事実と意見の関係性や要旨を把握する学習を多く取り入れ、文章の構成を捉える力を育成する。 ・様々な教科において、伝えたいことや自分の意見などを理由や根拠を明確にして文章に表す学習を行い、文章力を高めていく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.1	63.6	62.3
	B 図形	52.2	60.4	56.2
	C 測定	48.2	56.9	54.8
	C 変化と関係	48.2	58.6	57.5
	D データの活用	54.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	59.1	68.3	65.5
	思考・判断・表現	39.8	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

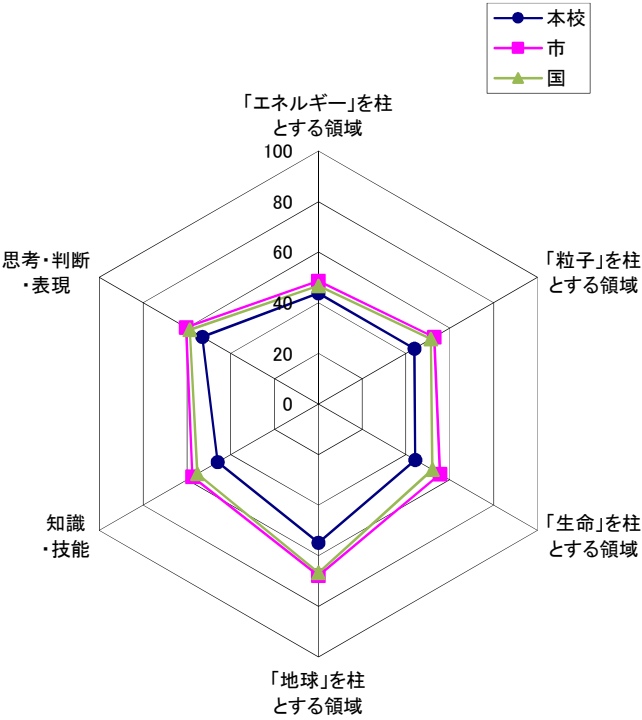
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は55.1%で、国の平均を7.2ポイント、市の平均を8.5ポイント下回った。 ●異分母の分数のたし算の問題では、国の正答率を11.7ポイント下回った。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題では、国の正答率を7.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ドリルやICT機器を用いて計算問題を繰り返し行い、基礎的な計算能力の定着を図る。 ・グラフの読み方、描き方を復習し生活でグラフや表を扱うように指導する。
B 図形	平均正答率は52.2%で、国の平均を4.0ポイント、市の平均を8.2ポイント下回った。 ○台形の意味や性質を理解しているかをみる問題では、国の正答率を8.7ポイント上回った。 ●五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く問題では、国の正答率を10.2ポイント下回った。	・多角形の性質について復習し、図形の面積の求め方を理解できるように指導する。 ・台形の性質を理解できていることを生かし、更に意欲的に学習に取り組めるように児童に指導する。
C 測定	平均正答率は48.2%で、国の平均を6.6ポイント、市の平均を8.7ポイント下回った。 ●はかりの目盛りを読む問題では、国の正答率を7.3ポイント下回った。	・はかりの目盛りの読み方について復習するとともに、家庭科や理科など、他教科でもはかりを実際使用する場を設け指導を行う。
C 変化と関係	平均正答率は48.2%で、国の平均を9.3ポイント、市の平均を10.4ポイント下回った。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後のかさ」が「増量前のかさ」の何倍になっているかを選ぶ問題では、国の正答率を15.9ポイント下回った。	・割合の意味や計算方法について復習し、日常生活でも活用できるように指導する。 ・数直線や具体物を用いて視覚的にも変化と関係を捉えられるような指導を増やしていく。
D データの活用	平均正答率は54.6%で、国の平均を8.0ポイント、市の平均を9.8ポイント下回った。 ●簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、国の正答率を12.7ポイント下回った。	・表の読みかたについて復習し、日常生活で活用できるように指導する。 ・社会や理科等、他教科でも表を積極的に扱い、児童が表に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.8	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	43.8	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	44.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	54.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	46.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	53.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は43.8%で、国の平均を2.9ポイント、市の平均を4.8ポイント下回った。 ●身の回りの金属について、電流を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、国の正答率は10.6%より3.5ポイント下回った。 ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題では、国の正答率を5.1ポイント下回った。	・アルミニウム、鉄、銅などの身近な金属において、電流を通すか、磁石に引き付けられるかといった性質を実験を通して確認し、理解させていく。 ・かん電池を使って回路を作る学習の復習を行い、直列・並列のつなぎ方、それに伴う電流の大きさの違いなどを確認し、電流や電磁石の基礎的知識を習得させていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は43.8%で、国の平均を7.6ポイント、市の平均を9.0ポイント下回った。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、国の正答率をそれぞれ19.6ポイント、10.6ポイント下回った。	・温度による水の状態の変化を復習し、水蒸発、蒸発、結露などの状態とそうになる温度などの条件について、理解を深めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は44.2%で、国の平均を7.8ポイント、市の平均を11.3ポイント下回った。 ○レタスの種子の発芽条件について、新たな問題を見出し表現することできるかどうかをみる問題では、国の正答率を2.2ポイント上回った。 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題では、国の正答率を20.7ポイント下回った。	・種子の発芽に必要なものを条件を変えて調べた実験の理解や、実験の考察で自分の考えを文章に表す学習の成果が表れた。今後も実験の目的を明確にしたり、実験や観察後の考察を文章に表したりといった学習を継続していく。 ・雄花、雌花などの名称やつくり、受粉の状態を復習し、単性花のつくりや実のでき方に関する基礎的知識を習得させていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は54.8%で、国の平均を11.9ポイント、市の平均を13.1ポイント下回った。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを調べる実験の条件に付いて問う問題では、国の正答率を18.8ポイント下回った。	・今後行う様々な実験において、実験の目的を明確にさせ、目的に応じて条件をどのように変えていくか考えさせ、的確に条件を設定する能力を養っていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」と肯定的回答をした児童は、94.7%で県平均、全国平均を上回っていたことから、食事に関する家庭環境が良好なことが伺える。

○「自分にはよいところがある」と肯定的回答をした児童は、89.5%で県平均を1.1ポイント、全国平均を2.6ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と肯定的回答をした児童は、93.0%で9割を超えている。今後も児童の良さを伸ばし、自己有能感や自己肯定感を醸成するよう全校体制で指導にあたりたい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答えている児童が96.5パーセント。「人が困っているときには、進んで助けている」と答えている児童は92.9%でともに9割を超える回答率であった。公德心や規範順守の意識が高いことが分かる。

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童は98.2%で県、全国平均を上回っている。道徳教育等を通じた公共心の涵養が結果に表れている。

○「国語、算数の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役立つ」の肯定的回答は、それぞれ91.2%(国語)、96.5%(算数)とどちらも9割を超えるなど肯定的回答をした児童が高い割合を占める。

○●「家にどのくらいの本がありますか」では、本を持っている数は、県の回答よりも多く持っていることは分かった。しかし、「読書は好きですか」に対する肯定的回答は、57.9%で県平均を13.2ポイント下回っている。図書室にどんな本があるかを積極的に子供たちに伝える方法を工夫していきたい。

●「学校が休みの日の一日の学習時間」では、1時間以下31.6%、全く勉強しないという児童が28.1%と学級の児童の半数を超えている。今後、学習の基礎基本の定着を図るとともに、家庭学習の仕方を目指して自主学習への充実を図っていく。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童は、75.5%で県平均を12.5ポイント下回っていた。今後は言語活動の内容と指導を工夫していきたい。

●「国語の勉強は得意」と回答した児童は、54.4%で、県平均を7.3ポイント、全国平均を7.0ポイント下回っていた。また「国語の勉強は好き」と回答した児童は、56.1%で県平均を3.7ポイント下回っていた。学習の方法や読書の習慣が身に付いていないと考えられる。

●「理科の勉強は得意」と回答した児童は、71.9パーセントで県平均を9.1ポイント下回っている。また、「理科の勉強は好き」と回答した児童は、75.4パーセントで県平均を7.1ポイント下回っていた。「理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つ」の肯定的回答は、67.2%で県平均を14.4ポイント下回っていた。以上のことから理科に対する興味、関心が低いことが分かる。今後は日常生活や学校行事の自然体験などを通して、科学的事象に触れる機会の充実を図りたい。

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	平日、学校の授業時間以外の、1日当たりの勉強時間について、1時間以上勉強している児童の割合は42.1%で、県の平均を15.1ポイント下回った。休日の勉強時間については、全くしないと回答した児童が28.1%おり、これは県の平均を15.7ポイント上回った。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の肯定的回答は68.5%で、県の平均を13.3ポイント下回った。「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりできる」の肯定回答割合は77.2%で、県の平均を8.7ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の読むことに関する領域において、国の平均を10.2ポイント下回った。文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題に課題が見られた。	おすすめの本の紹介	読書月間や長期休みにおける読書を励行し、読んだ本を友達に勧める「この本読んだよ」のプリントを教室や図書室に掲示する。おすすめの本について内容を分かりやすく説明したり、感想を書いたりすることで読む力と書く力の両方を高めていく。